

平成 27 年度入学者

平成 29 年 3 月 31 日
教養学部教務課前期課程

『履修の手引き』記載内容の変更について

『履修の手引き』記載内容について、下記のとおり変更となります。

記

II 各科目の履修方法

2. 基礎科目の履修

(7) 自然科学 基礎実験 (『履修の手引き』 p. 17)

対象科類	取得すべき 最低単位数	科目毎の 単位数	科目毎の 開講形態	開講ターム			
				1 A1	1 A2	2 S1	2 S2
理科各類	3	1	ターム制 週2コマ	○ (必修)	○ (必修)	○ (必修)	○ (任意選択)

基礎実験は理科生の必修で、各科目 1 単位の科目群である。1 A1・1 A2・2 S1・~~2 S2~~
タームにクラス指定で~~2 S2~~タームに開講される。そのうち、1 A1 ターム・1 A2 ター
ム・2 S1 タームはクラス指定で開講され必ず履修する必要がある。2 S2 タームの履修
は任意となるが、単位取得した場合は「基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最
低単位数の他に取得しなければならない単位数」(p. 27) に含めること。

IV 定期試験と成績の評価

3. 成績評価が「不可」または「欠席」となった場合

(2) 追試験

①追試験の申請および許可

4) 注意事項 (『履修の手引き』 p. 38)

- イ) 他クラス聴講生 (p. 39) 及び文科生で要求科目として履修している場合もクラ
ス指定の学生に準じて扱う。

(中略)

- ロ) 原則として、S1 ターム・S2 ターム・S セメスター開講科目 (「物性化学」、「生
命科学」(理科一類生対象)を除く) の追試験は、次の A1 ターム (A セメスター)
開始後に行う。「物性化学」、「生命科学」(理科一類生対象) の追試験は S2 ターム

期間中に行う。同様にA1ターム・A2ターム・Aセメスター開講科目の追試験は、当該科目の開講された年度内に行う。ただし、「微分積分学」、「線型代数学」の受験資格Aに該当する1年生及び受験資格Cによる追試験は、次のS1ターム（Sセメスター）開始後に行う。

(中略)

②追試験の成績

3) 注意事項

追試験の成績が定期試験の成績を下回る場合は、定期試験の成績をもってその学期の成績とする。また、~~2S1ターム分の追試験の成績は、進学選択の平均点には算入されない。~~2S1ターム・2S2ターム・2Sセメスター分の追試験のうち、「物性化学」、「生命科学」（理科一類生対象）の成績は進学選択の平均点に算入されるが、その他の科目の成績は算入されない。

~~(7) 進学処置願~~ (『履修の手引き』 p. 42)

対象科目	対象者	仮に与えられる成績（点数）
物質科学「物性化学」	定期試験を病気・事故など不測の事態により欠席した者	物質科学 構造化学の点数の1/2

~~2S1タームに開講される基礎科目において、上表の科目の定期試験を病気・事故など不測の事態により欠席した場合、所定の期間に教務課前期課程窓口に診断書等を提出したうえで、UTask-Webログイン後の【進学処置願】画面から申請すれば、進学選択の選考に際してのみ、上表の基準で仮の点数を進学選択に用いる平均点計算の際に算入する。~~

~~なお、診断書等の提出がない場合は、UTask-Webで進学処置願を申請しても無効となるので注意すること。~~

~~仮に与えられる点数は、あくまでも進学選択用であり、追試験後は、追試験の成績に置き換えられるものである。進学が内定しても、追試験を受験しなかった場合、成績は元の「欠席」に戻るようになる。~~

4. 留年・降年

(1) 留年

② 2年次終了時の留年 (『履修の手引き』 p. 43)

- 1) 留年等で修業年限の2年間を満たしているものを除き (ただし1・2年次の各学期にそれぞれ1度でも在学していること)、 2A1ターム・2Aセメスター以降に休学した者は、自動的に留年となる。

以上